

令和5（2023）年度 第2回八尾市子ども・子育て会議議事概要

日 時：令和6年3月19日(火)午後7時から

場 所：八尾市立青少年センター 集会室

出席者：委員13名、事務局（関係課含む）

開会

1 案件

（1）特定教育・保育施設等の利用定員について

事務局から資料に基づき報告等

【資料1】特定教育・保育施設等の利用定員（案）

【資料2】就学前施設等の整備について

下記の意見交換ののち、事務局提示の利用定員（案）を承認。

（委 員）これまでの整備で、八尾市が認定こども園の整備をはじめた平成27年と令和5年を独自に比較してみたところ、幼稚園を含め、ほとんどの園の定員がマイナスになっているようだ。圏域によってはニーズが増えていないと感じるところもあり、今後も施設の整備を進めるようだが、子どもが少なくなっているので、園は定員割れしていくところも出るのではないか。

（事務局）各園で、1号、2号、3号それぞれで定員を設けている中、全体として定員が埋まってない園もある。保護者の声を聞きながら全体の保育ニーズに対して応える整備を進めてきた。令和5年4月1日時点では、待機児童は0であったが、保留児童は193名となり、200名近くがまだ入っていない状況となっており、全体として子どもの数が減少傾向にある中でも、共働きが増えているので保育ニーズが伸びている。今回の利用定員案については、各園の個別の状況も聞きながら、それぞれの園と調整して積み上がった結果である。次期計画策定に向けては、今後も人口動向やニーズを見ながら委員の皆様と検討していきたい。

（委 員）市役所窓口で園の空きがないと言われても、実際は空いており、入所できる場合がある。他市で行っているが、パソコンで園の空き状況を市民が見ることができるシステムがあれば便利ではないか。

（事務局）大阪府がデジタル化を進める中で、Googleマップと連動した大阪府内の保育所、認定こども園等のマップを作っており、本市も園の所在等を掲載し、最寄りの園等を検索できるようにしている。一方で、園等の空き状況については掲載していない。年度途中の申込については随時対応していることからリアルタイムの空き状況を正確に掲載するのは難しいためであるが、地域全体の施設の空き状況を見ながら広い選択肢で園を決めていきたいというニーズがあるのであれば月単位の更新等を含めて検討していきたい。

（委 員）リアルタイムで園の空き状況を見るようにすることは難しいだろうと思うが、市民へ利便性という点で情報提供の手法については継続して検討していただきたい。

(2) 次期八尾市こどもいきいき未来計画策定に係る調査結果（速報値）について （単純集計・クロス集計報告）

事務局から資料に基づき報告等

【資料3】八尾市子育て支援に関するアンケート調査 調査結果報告書（速報値）

【資料4】八尾市こども・若者の意識と生活 に関するアンケート調査 調査結果報告書（速報値）

- (委員) アンケート結果で「やむをえず、子どもだけで留守番をさせた」というものがあった。園でも入所している子どもが登園しない、園が閉まる時間にお迎えが来ないケースがある。保護者が送迎できない理由は様々あると思うが、そのような保護者や世帯の課題等を把握し、対応していく必要があるのではないかと。せっかく子どもが入所できているのにサービスが利用できていない現状に対して、公民連携で何か仕組みを考えていくことがいるのではないかと。
- (委員) 利用する園、放課後児童室によって利用開始時間と閉園時間が違う。利用当時、朝7時から20時まで利用でき、延長料金もかからない園にお世話になり、すごく助けてもらったが、違う園だったらどうなっていたのか。緊急時など、夫にお迎えを頼んだりしていたが、両方が、忙しい時は20時ぎりぎりのお迎えになったときあったので、こういう時、何かフォローがあればありがたいと思う。
- (委員) 市役所は、基本申請主義で、情報を知らない、得ることができない人には、生活しづらい社会になっているのではないと思う。官民連携も必要だが、申請主義ではなく、広報についても十分検討してもらいたい。私は、学校の学童の先生が、制度を教えてくれたので知ることができた。このようにいろんなところで制度を広めてくれる人がいれば良いと思う。
- (事務局) 入所している子どもが来られない、お迎えに来られない件について、日々、園で見守りをさせていただき、非常に頭が下がる思いである。こども総合支援センターほっぷでも園から情報をいただき、支援員が自宅へ訪問したり、家庭の状況確認もしているところではある。ただ、支援員から保護者へアドバイスはしているが、保護者の生活状況等から、なかなか改善に至らないケースもあり、このようなケースに対しては、多機関で連携して対応していく。
- また、制度の周知については、子育て応援ブックやホームページ等々でも広報しているが、情報が届いてないというところは課題であると認識している。
- (委員) 「子どもが病気の時に、どんな対応をしましたか」という設問で、「やむを得ず家に残した」との回答があったということだが、ここでは、ベビーシッターやファミサポとかは全然利用されておらず、利用料金がかかるというのが理由なのではないかと思う。
- (委員) 策定部会でも手を差し伸べてあげたい家庭があるという話があった。八尾市では母子保健において妊産婦から子どもが生まれて、ずっと見守っていきながら、色々情報を伝えている切れ目のない支援を実施していると思うが、ここにつなげられない方がいる。その方々どのように、つながり支えていくのかは、なかなか難しい課題だと思う。頑張っていたくのはもちろん八尾市だが、身近な地域にある各認定こども園等が地域の子育て支援を担うとなっている。具体的には園庭解放や相談事業、一時保育があり、この3つを全部揃えてやってもらえることはなかなかないのだが、地域の身近な相談窓口として想定されている。「かかりつけ医」のようなイメージで、「私はここの園に行ったら相談にのってもらえ

る」という関係性を園と地域の親御さんが作っていただくようなことができたらと思う。そういうことからやっていただき、同時にフレキシブルに子どもが預かれる、SOSの時にファミサポや家庭的保育事業など弾力的に地域の中で助けていただける人が必要である。4、5歳だけで留守番をしている、保護者が自分の体調などの問題で子どもを園へ送迎できない家庭もあると思う。本人がSOSを出せるとっかかり、気づきを母子保健の段階から見守ってもらいキャッチして、こども園やファミサポなど地域の方々を中心に支えることができればと思う。

(委員) 相談相手や相談先別の集計から、ほっぷのパーセンテージが高くなっている。地域にだんだんと浸透していると思うとうれしい。

(委員) 子どもが生まれてすぐのお母さんが、子どもを園に送っていけない状況はあると思う。短い期間ではあるが、近くにサポートしてくれる方がいない、ファミサポに登録するのはハードルが高い。地域で一緒に考えるとなんとかできるようになる場合もあり、移動支援のような仕組みがあるといいなと思う。やはり、経済的な問題はあるので、そこに無償で月回数限定のような仕組みであればなど。子どもが園に入所しているのに送迎できない事情が、子どもを産んだからということであれば、すごく矛盾していると思う。行政がサポートしていただけるとありがたい。

(委員) 地域の民生委員児童委員は、行政と民間のつなぎ役になることができるので、地域の子育て世帯と市役所のサービスや施策とのつなぎ役になっていけるような仕組みを地域でつくっていただければいいと思う。

(委員) ファミサポ支援等もあると思うが、時給を考えると一般に比べると安いのが最低でも2、3時間かかる。単価が安くても積みあがって高い金額になると利用はできない。そのあたり、所得のある場合はベビーシッターを雇うなどしているが、低所得者にはできない。行政としてそのあたりの所得に応じた支援が必要と思う。何歳までは無料にするなどの支援は必要。物価も上がり、余計に格差が広がっているのでお願いしたい。

(事務局) いろいろな支援が行政にはあるが、委員の話を聞いていて、必要な人に伝わってない、つながれていないという課題がある。ほっぷの機能拡充を進めているが、地域にほっぷと連携できる身近な相談支援機関を作っていくことについて今後検討していきたい。より地域の身近なところで相談し、支援サービスの情報も得ることができるしくみができれば、支援メニューがあるのに知らなくて使えない状況を解消していけるのではないかな。

また、所得の低い方が支援メニューを使えないというところについては、市の支援制度の中に、所得基準を設けており、例えば生活保護を受けている世帯であれば0円、非課税だったなら低額で利用できる制度もある。一方で、ファミサポについては、ボランティアな部分になっており、所得によって差をつけることができない。市としても持っている予算も限界があり、市単独でというのは難しいところがあるため、国の制度拡充も見ながら、国の支援を受ける部分については活用していくなどして検討してまいりたい。

行政だけでなく、地域の方、社会福祉法人、いろんな方とつながって子育て世帯を支えていく仕組みを作っていけないかという話については、ほっぷも機能拡充もしてきているが、ほっぷだけで全てのケースに対応することはできないため、例えば急性期的な支援が必要な場合にほっぷが対応して、その後地域で見守っていただけるなど、地域の中で子どもたちが健やかに成長できるような環境を一緒にこの会議等で考えていきたいと思っている。

(委員) こども園だけでなく、民生委員児童委員の子育てサロン「はとぽっぽ」などもあればいい

などと思う。つどいの広場はコロナ禍では定員があり、公立こども園でびよびよ教室、きらきら教室があるが応募してもはずれた経験がある。いろんな形で、受け皿をたくさん作り蜘蛛の巣ようにはりめぐらせたらと思う。

(委員) 保健センターで妊娠届を提出したとき、過去の病歴など聞かれるが、その先も保健師や助産師が伴走してくれたらよいと思う。産休に入るところに状況を確認したり、使える仕組みやサービスを教えてもらえるなどの支援があればと思う。伴走支援の在り方は見直してほしい。

(事務局) 伴走型支援は、国の制度であり、令和4年の2月から、出産・子育て応援事業ということで、妊娠して5万円の給付と出産して5万円の給付と合わせて、必ず妊娠届け出時と出産した後に面談を行う事業をしている。妊娠届を出しに来られた時には、まだ妊娠初期なので、出産のことまで頭にはないと思うのだが、今後こういうことが待ってるよということで、情報提供を行う。助産師で行っているが、8か月のころにアンケートを送付し、希望者には、こちらから電話や訪問などして、妊娠後期に、相談対応できるような仕組みになっている。また、出産後も、必ず新生児訪問もあり、できる限り寄り添いながら、その時に必要な情報や支援や、いろんな地域のサービスなどについて情報提供しながら、必要な方には、一緒につどいの広場の方に、保健師が一緒について行くなど、伴走型の支援を今進めているところである。

(委員) 新生児訪問だが、国としてはこんにちは赤ちゃん事業で、生後4か月までに全戸訪問になっていると思う。1か月健診、今は産後2週健診の病院に行く、それで1か月健診で、母体健診と新生児健診があり、さらに家庭訪問があるとすると、結構苦しい。期間を見直してもいいのではないかと思うので検討してほしい。

(事務局) 産後のお母さんの体の状態や里帰りでお帰りになっている方もおり、健診はしっかり受けていただいて、家庭訪問もその方に応じて実施する。その時期がしんどいという方は、4か月健診までに助産師や保健師が訪問し、相談や必要な支援に繋ぐことを行っている。4か月の期間の中で柔軟に対応が可能ではある。

(委員) コロナで、「はとぼっぼ」は4年ほど中断していたが、昨年の12月から再開できるようになり、これから各校区順番に開催されるので利用いただきたい。

また、個人的に感じることだが、若い人が町会に入っていないということに問題を感じてしまう。町会に入っていれば、顔みしりにもなれるので、近所で子どもを預かるよとか、そういうことを言える雰囲気は昔はあった。だんだん町会に入る人も少なくなり、地域のつながりが薄れている。特に若い人が町会に入らなくなったということについてなんとかならないかなと感じている。

(委員) 自治会の入会の課題は、どこの自治体も頭を抱えていることだと思う。

(委員) 私が勤めている施設で、町会との交流があるのだが、ご年配の方が多い。こども会もなくなり役に就くのが大変だからという声をきく。地域の関係性が稀薄になってきていることはこの時代の流れになっているのかなと思う。何かそれに変わるものがないかなと。施設では地域の人と交流する行事を行っているが、つながりづくりのためには、お祭りなどがいいのかなと思っている。

(委員) アンケート調査に外国籍の家庭はこのアンケートを答えられたか。

(事務局) アンケート調査の対象には入っている。アンケート送付の際、多言語対応可能な相談窓口案内を掲載した。回答内容では外国籍の方が回答したのか把握はできないが、自由記述欄

では、外国籍の方が回答していると推察できるものはあったが、確定的なことはわからない。

(委 員) アンケート結果からつどいの広場の利用が少ない。コロナで自粛していたことも影響しているのか。

(事務局) つどいの広場の利用減の理由としては、就学前施設に入る年齢がかなり下がってきている状況がある。1、2歳で入所すると、地域の広場を利用しない状況になるため、利用の回答が低くなっていると推測される。

(委 員) こども・若者の意識と生活に関するアンケートで、全体的に引きこもり群とカテゴライズされている方の無力感とかあきらめ感みたいなものが数字に現れている。相談しても解決できないと思うからという割合が高くなっていると分析されている。伴走型支援等につながらず、孤立した結果だと思う。今後計画策定をするにあたり、子どもの時からSOSを出せる、話を聞いてもらって終わりではなく、話したら助けてもらえるところが大切だと思う。何か行き違ってしまう本人が傷つく体験をしてしまったら、二度と相談に行かないのではないか。それは、どちらも悪くなく、自分を大事にする自尊感情や、教育だと思うので、そういうところに、しっかり人を増やすとかサポートしてもらいたい。無償化よりも、こういった所に取り組んでいくことが必要。八尾市の中でも地域共生推進課で取り組んでいる8050問題などでは、かなり幼児期からつながっているのではないかと。

(事務局) 重層的支援体制を今年度から実施しており、いわゆる8050問題、親が80代になられて、特に中高年層の方々の引きこもりや、地域から孤立している方々のケースにつながる体制を作って、対応していくと非常にたくさんのケースが出てきた。つながらないケースなどは、実際、現場に出向くことで、実態がわかってきている。そういう方々の支援を今、社会福祉協議会を中心に地域の方々にも協力いただきながら実施しているが、その中で見えてくるのは早い段階から支援の手や相談できる場所や、つながりが必要だったということ。例えば、学校に行けていないなど、小さなきっかけで社会から一度ドロップアウトしてしまうと戻れないという経験をされている方々がたくさんおられ、それをもう1回、地域の居場所などにつないでいきながら、地域の方に協力をいただき、少しずつ社会復帰する取り組みをしている。つなげる支援室という、複雑で複合的な課題を抱えた世帯の方の相談を受けているが、子どもの相談が非常に多くなっている。早い段階で予防的に支援をしていき、虐待など、課題が大きくなる前や不幸なことが起こる前に、手を出していく仕組みというのは非常に大事なため、ほっぶの体制もあるが、行政だけでできることは非常に限られてくるので、地域の皆さんにもしっかりとご協力をいただきながら、見守っていただく体制が大事だなというところは実感している。

(3) こども・若者意見聴取の取り組みについて

事務局から資料に基づき報告等

【資料5】計画策定にむけたこども・若者意見聴取の取り組み

(委 員) 若者の意見を聴取するということで、ひきこもりや不登校の方の代弁という形だが、アンケート調査でもすごくいい意見があった。例えば、このアンケートをすることで、相談窓口があったのがわかったとか、人に役立てるようなことをしたいとかいう、すごくプラ

スになる回答がたくさんあったと思う。同じ人にWEB上で意見を募集するというのはハードルが高く、たどり着くのも難しいと思う。当事者に直接意見聴取する方法があれば、さまざまな状況にある方にもスポットが当てられて意見が聞けたりするのではないかなと思うので、声を出しやすい仕組みの検討をお願いしたい。

(事務局) 常設型として、WEB上での意見募集について、そこになかなかひきこもりの状況にある方などはたどり着きにくいのではないかなというところだが、今回の意見聴取は、すべてのこども若者の意見聴取ができる完璧なものを作るのは難しいと感じている。まず、行政としても初めて取り組む部分であり、まずは、やってみてはじめて成果やいろいろな課題が見えてくると考えている。まずは広くいろんな対象の方から意見を聞かせていただき、計画策定につなげていく。そういった趣旨でこの常設型とスポット型とアドボケート型という3つの方法でやっていきたい。そこで見えてきたものから、ブラッシュアップしていけたらと思っている。

(委員) 意見を聞くのに年齢が下がると難しいと考える。商業施設で「なんでやねんカード書いてや」と言うと、子どものちょっとした声で「公園でボール遊んだらあかんのなんでやねん」など、子どもたちが日ごろ思っていることがわかる。なんでやねんカードを作ることから小学校1年や年長の声も聴けると思う。

(事務局) スポット型でテーマを決めて、出向いて子どもの意見を聞きに行こうと思っているが、委員の「なんでやねん」を集めるのは良いテーマだと思った。テーマはこれから決めていくところであるが、「なんでやねん」を設定し、可能であれば、集めたのを子どもたちの「なんでやねん」のすごろくを作っている人に提供し、使っていただけたらもっと広がるのではと思う。

(委員) こういうことも言って良いということ子どもたちにもわかってもらいたい。

(4) 次期八尾市こどもいきいき未来計画の策定について

事務局から資料に基づき報告

【資料6】次期こどもいきいき未来計画の策定について

意見等なし

その他・総括等

(委員) 「なんでやねん」すごろくって、「なんでやねん」て思う。なんで関西弁なのか。実は、社会的養護の分野でこどもの権利に早くから注目し、発信したのは大阪。当時関東の研究者との交流もあったが、大阪の現場が一番元気であったという経過がある。八尾市も次世代育成新計画策定の際に、全国に先駆けて子どもの意見を聞いて計画づくりを行った。これから八尾市がつくるこどもいきいき未来計画が、夢がある、元気がでる、そういう計画をみなさんと策定していきたいと思う。いろいろな意見をいただけたらと思う。

閉会